



さくらんぼ



自ら動き、感じ、楽しむ
～笑顔あふれる幼稚園～

NO.5 令和5年11月30日発行
山口大学教育学部附属幼稚園
URL: <http://www.ymg-kg@yamaguchi-u.ac.jp>

園庭の紅葉した木々の葉も随分と散り、朝夕はすいぶん肌寒く感じられるようになりました。2学期もあとひと月となり、子どもたちの友達関係も広がったり深まったりしています。今回は、そんな子どもたちの友達関係の様子をお伝えします。

友達と一緒に♪ (花組)



日中はポカポカと心地よい日が続き、秋の自然に触れながら戸外で元気いっぱい遊ぶ花組さんです。最近、秋の自然物を取り入れながら友達と一緒にごっこあそびが楽しくなっている姿も見られます。先日、AくんとBくんが「先生、バーベキューしよう!」と言って、机や焼き網を一緒に準備しました。Aくんが「僕、魚釣って来る。」と言って池の中に落ちている落ち葉を拾い、Bくんが「僕、釣り行ったことある。」と言って釣る真似をしました。保育者が「そうやって釣るよね!糸の先に餌がついていて、水の中に入れると魚が釣れるんだよね。」と一緒に釣る真似をしました。Aくんがそれを見て、「釣る棒が欲しい!」と言いました。一緒にどうやってつくるかを考え、広告棒の先にスズランテープを結び、その先に餌に見立てたガムテープを付けました。魚に見立てた落ち葉がガムテープにくっつき「釣れた〜!」と喜び、周りにいた子どもたちもすぐに「やりたい!」と集まりました。「マグロだー!」「アジが釣れた。」「2つも釣れた!」と竿についた落ち葉を知っている魚に見立て遊び出します。

次の日は、女の子3人も魚釣りに興味をもち、釣った魚で料理をしてパーティーが開かれました。釣ったり、料理したり、食べたりを繰り返して遊んでいると、Cちゃんが「先生、これは悪い人になる魔法の魚だよ。食べてみて。」と釣った魚を保育者に渡しました。「そんなはずはないでしょう・・・」と保育者が食べると、あっという間に悪者に!?それを見て周りの子どもたちはヒーローに変身です。プリキュア、キングオージャー、ピクミンや恐竜と現れ、みんなでそれぞれの攻撃技で悪者をやっつけます。Dくんが「僕はジンベイザメ」と言い池の中を泳ぐ真似をすると、それにつられてEくんも「僕はスピノサウルスだよ。」と言い、魚(落ち葉)をムシャムシャと食べる真似をしていました。そして、Eくんが「元に戻る魚を捕まえた。」と言って悪者に渡しに来ました。元の保育者に戻ったものの、またすぐに魚釣りをしては、「オオカミになる魚だ。」「怪物になる魚」と悪者になる魚を釣っては、悪者と戦うことを楽しむ子どもたちです。友達と一緒に遊ぶことが楽しくなってきたこの時期、友達がやっていることを見て、「同じことをやってみたい」「同じものを身につけたい」と自分から遊びや友達にかかわることが増えてきました。自分のやりたいことをする中で、友達の存在を感じながら、それぞれのペースで遊びやかわりを広げています。「友達と遊ぶのが楽しいな」と感じたり、友達の遊びの

面白さに触れたり受け入れたりしながら、それぞれに楽しんでいる遊びをこちらが支えたりつなげたりしていきたいなと思います。(尾川)

仲良しの証♡ (風組)

毎日、それはもう本当に真剣な表情で、誰がどこに座るのかを言い合っている風組の子どもたち。先日、保育者が参加した研修会で、誰がどの席に座るのかで5歳児の子どもたちの思いがぶつかり合ったエピソードを聞きました。風組にとって、まさにタイムリーな話です。その5歳児の思いのぶつかり合いは、一見場所の取り合いをする言い合いのように見えていましたが、実際は、自分の考えに自信をもちその正当性を相手に伝え合っていたのだというエピソードでした。正義感や集団を意識して話し合っているところが5歳児らしいと感じました。4歳児の風組の子どもたちは、自分は誰と一緒に座りたいのかで言い合いになっています。友達とのかかわりの中で、思うようになったりならなかったりする経験を積み重ねながら、成長していくまさに4歳児らしい風組の子どもたちです。

毎日言い合うことを繰り返し、最近では、事前に約束をするということを感じた風組さん。この約束が効果を発揮して、すんなりお弁当を迎えることができる日もあれば、「約束したのに…」と新たな火種になることもあり、子どもたちにとっては悩ましいことでしょう。誰かが「僕が、Aくんと座って約束したのに…」と言い始めると「僕が先に約束してたよ。」「・・・(無言の抵抗)」「僕はさっきトイレで約束したもん。」「昨日我慢したのは僕だよ。」「いいこと考えた。帰りに座っていいの?」「手が届くからこっちの椅子でもいいんじゃない?」「顔が見えるからここでもいいか。」「僕は誰と座ってもいいよ。」「わかった。じゃあ僕があっちに座るから、ここ座ってもいいよ…(全く納得してない表情で…)」と、それぞれが思ったことを言い始めます。その話し合いの白熱ぶりといったら、保育者が口を挟む隙もないほどです。そのとき女の子たちはというと、黙って事の成り行きを見守っています。「早くお弁当食べたい」と言われてもおかしくないほどの熱量を費やして、話し合いがなされているにもかかわらず、黙って見守る女の子たちの優しさ感謝です。男の子たちも、思っていることを伝え合える友達との関係ができてきているところが素敵だと思います。このような思いの伝え合いを繰り返すうちに、今では、友達が思っていることを聞いて自分なりに考えたことを言うようになり、状況に応じて自分なりに折り合いをつけようとしていたりする姿も見られ始めています。

また、「今日一緒に遊んだから、一緒に座ろう。」など、約束の内容も少しずつ変わってきています。一緒にお弁当を食べることが、仲良しの証になっているようです。保育者が「あら、珍しい人たちが一緒に食べるのね。」と声をかけると、子どもたちは「お昼からも一緒に遊ぶんだよね。」と言って、二人の仲を確認し合う姿も微笑ましいです。

昼食前の一場面でのこの姿ですから、好きな遊びの中ではどれだけの友達



とのかかわりがあり、どれだけの思いのぶつかり合いがあることでしょう。友達とのかかわりが深まってきていることを、子どもとも保護者の皆様とも一緒に喜びあえると嬉しいです。(中原)

仲間と共に・・・(星組)

星組の子どもたちはつくることが大好き!新聞紙やガムテープを使い、犬や猫、ポケモンなどの好きなキャラクターをつくって遊ぶ姿が多く見られます。ある日、数人の男児がいろいろな種類のモンスターボールをつくっていました。「ポケモンごっこが始まるのかな?」と思いながら様子を見てみると、子どもたちは自分達で遊びのルールを決めて、戸外でモンスターボールを使った鬼ごっこを始めていました。モンスターボールを持った鬼役はロケット団、逃げる役はポケモン、ボールが当たったら牢屋に入り、仲間のポケモンがタッチをしたら逃げるができるというルールです。その中で、「顔と頭に当てるのは無しにしよう。」「鬼が高いところに上がるのは?」「鬼は下から投げて当てることにしよう。」など子ども同士で相談しながら遊び方を決めていく姿もありました。これまでも楽しんできた高鬼や助け鬼の遊び方、ドッチボールのルールなどを取り入れながら、自分達なりに楽しく遊べる方法を考え、新しい遊びをつくっていったのでした。

次の日には男児・女児関係なくいろいろな友達が加わって楽しむようになり、モンスターボール鬼ごっこはクラスみんなの遊びになっていきました。日を重ねるごとに、子どもたちは工夫を凝らして、ポケモンを捕まえる方法や仲間を助ける方法を考えています。Aくんの作戦は、鬼に見つからないように牢屋の後ろの草むらに身をひそめながら、隙を狙って仲間を助け出す隠れ作戦!Bくんの作戦は、本当は鬼なのに「助けてよ〜。」と言いながら牢屋の近くに座り、ポケモンをおびき寄せ騙し作戦!気づいたCちゃんが「騙されないで!」と仲間知らせます。友達のアイディアが面白く取り入れてみたり、同じ仲間と作戦を共有しながら遊んだり、日に日に遊びの内容が豊かで面白いものへと変化しています。また、ある日は、「鬼が多すぎてすぐに捕まるよ〜。」と泣きそうになったDくんの声を聞いて、Eくんが「みんな、集合!Dくんが何か言ってる。」と周りの友達に声をかけました。「なに?どうした?」と自然と集まる子どもたち。それぞれにみんなで一緒に遊ぶことが楽しく、もっと楽しくしたいという思いがあり、そのために友達の話を聞いたり相談したりしながら、みんなでよりよい方法を考えていこうとしているのだと思います。「楽しい」という原動力は、豊かなアイディアを生み出したり、仲間を思いやる心を育てたりと、たくさん大切な力を育むことにつながるのだと改めて実感しました。さらに、「仲間と一緒に楽しい」という思いがあるからこそ、もめることがあっても諦めずに解決しようとする姿につながっているのだと思います。仲間と共に大きくなっていく子どもたちの今後がとても楽しみです。(雨谷)

